

女取之授女藏人女藏人傳取自御基帳。上供之壇間御宮内輔侍醫等於小板敷前一嘗之

〔江家次第正四見〕臨時除目

畫御座如官奏時

以畫御帳南北几帳立第二三間母屋際裾在東故隆方朝臣曰四年御屏風東面仍御几帳裾在西

〔三中口傳三〕屏風几帳事

弘間几帳ハ二本ヲ重テ立之爲上左

御座中央立隔几帳事

准據無之

二帖ヲ立ル屏風ニハ二帖ヲ引重テ可立爲上左屏風付几帳帷出様打任テハ几帳ノ手ヲ立ル事

ナレバ出几帳ト書ツレバ隨所便宜閉付タルトモ立手之様ニテアリ覆御簾ニハ所立手ナレ

バ内ノ方ニ閉付タリ覆御簾出几帳ト書ツレバ心得ラレタリ几帳ハ雖弘間毎間一帖出之

〔婚禮法式上〕婚迎之部

一御料人の御座のそばに几帳を立る几帳は婦人の形をかくす爲に立る也几帳は京都の職人のこしらふる物なり

〔空穂物語樓の上之上〕ちいさきあふぎさしかくし給てゐざりいり給を一院き帳のほころびよ

り御らんじて、いとうつくしとおぼす、

〔源氏物語帶木〕おとゝもわたり給ひて、うちとけ給へれば御木丁へだて、おはしまして御物語

きこえ給を、あつきにとにがみ給へば人々わらふ、

〔源氏物語九〕姫君いとうつくしうひきつくろひておはす、ひさしかりつるほどに、いとこよなう

こそをとまびたまひにけれとて、ちいさき御木帳ひきあげて、みたてまつりたまへば、うちそば